

広島県新人看護職員研修事業 推進のための仕組み

佐藤構成員資料

医療現場の
ニーズ把握



ワーキングで
課題検討



必要な支援の
実施・評価



地域連携体制の構築の経緯

I 新人看護職員研修ワーキンググループの設置 (H22.8)

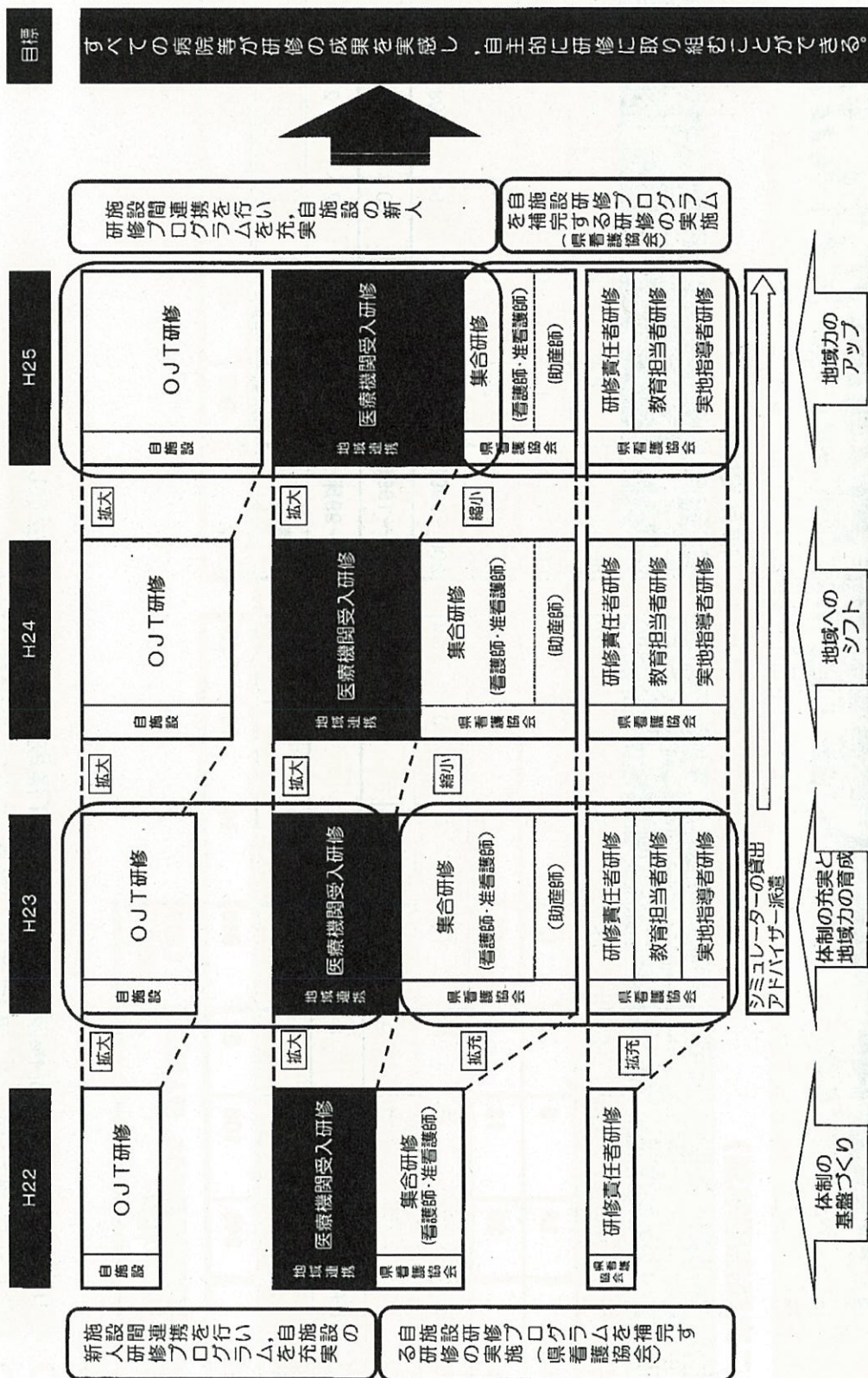
＜構成員メンバー＞

- ・ 関係団体（医師会・看護協会・病院協会・有識者・
県立の看護学校）
- ・ 二次医療圏域毎に1名の看護部長（計7名）

＜検討内容＞

- ①新人看護職員研修事業の目標の設定
- ②人材確保等の体制整備
- ③その他事業の推進のために検討が必要な事項

新人看護職員研修事業概要



新人看護職員推進事業(新人研修ワーキング)

H22年度 新人看護職員研修の状況

(二次医療圏域別)

圏域	県内病院数	新人看護職員がい る病院数	補助金申請数	新人看護職員数	受入研修可能施設数	受入研修参加施設数	参加人数
広島	100	46	26	453	7	11	20
広島西	13	5	4	92	2	1	5
呉	30	13	4	160	0	0	0
広島中央	20	6	3	36	0	0	0
尾三	25	15	5	68	1	0	0
福山・府中	49	17	8	83	2	0	0
備北	11	4	2	24	2	2	4
合計	248	106	52	916	14	14	29
県内新人看護職員数のうち、新人研修補助対象者数(割合)				1,527 (60.0%)			

課題

- 400床以下の中小規模病院におけるOJT補助金申請施設が少ない。
- 「呉」と「広島中央」の2圏域では、受入研修可能施設がない。
- 受入研修可能施設、参加施設数共に数が少ない。

(病床数別)

病床区分	病院数	新人看護職員がい る病院数	補助金申請数	新人看護職員数	受入研修参加施設数
500床以上	8	8	7	343	0
400～499床	11	10	7	204	0
300～399床	22	13	7	129	2
200～299床	23	17	9	108	1
100～199床	87	44	20	130	5
20～99床	97	14	2	2	2
診療所					4
合計	248	106	52	916	14

＜注釈＞※新人看護職員がいる病院数は、広島県の独自調査により数を把握
 ※新人看護職員数は、補助金申請のあった病院の就業者を把握
 ※県内新人看護職員数は、卒業生就業状況調査より就業者を把握

Ⅱ 現場のニーズ調査(H22)

①「外部研修における研修内容の希望調査」

医療機関受入研修への参加を希望する施設の回答(32施設)

ガイドライン 区分	希望 項目数	主な内容
基本姿勢と 態度 (16)	3	・ チーム医療 ・ チームでの適切なコミュニケーション
管理的 側面 (18)	3	・ 血液製剤の適切な請求・受領・保管 ・ 災害発生時の初期行動の理解
技術的 側面 (69)	3 5	・ 酸素吸入, 吸引, ネブライザー, 人工呼吸器の管理 ・ 麻薬の主作用・副作用の観察, 輸血の準備・観察 ・ 意識レベルの把握, 気道確保, 人工呼吸, 心マッサージ, 気管挿管の準備と介助, 止血 ・ チームメンバーへの応援要請

Ⅱ 現場のニーズ調査(H22)

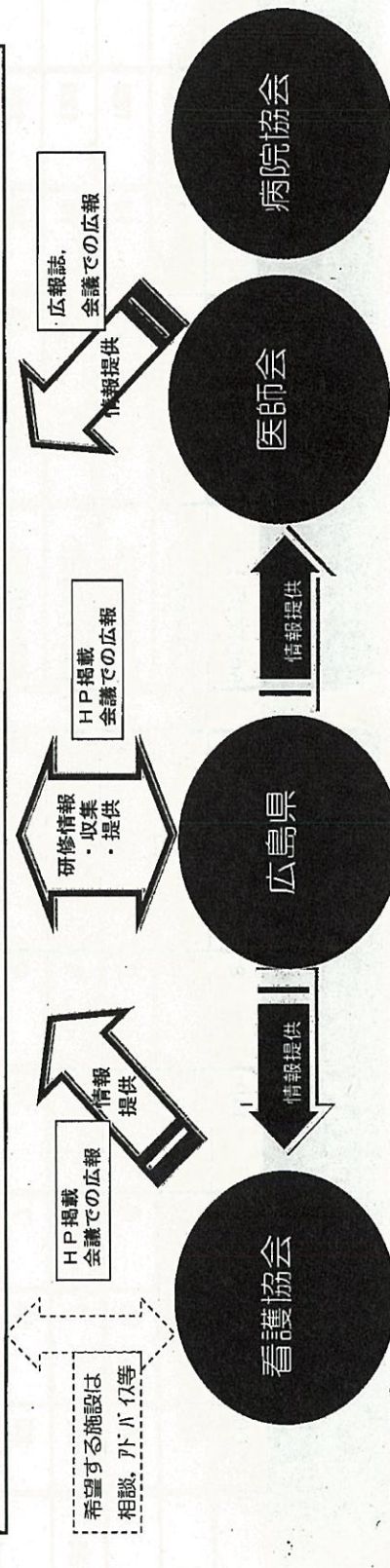
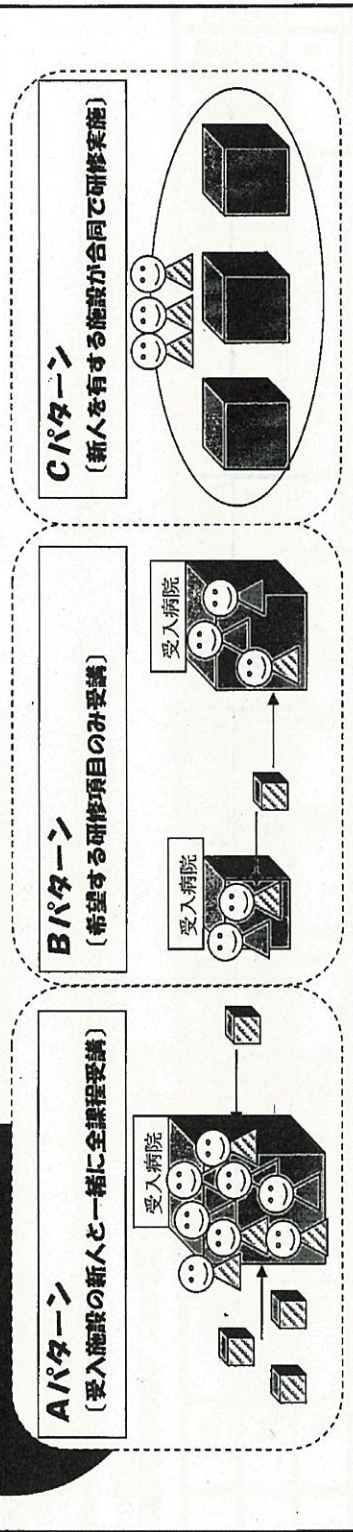
② 「医療機関受入研修実施施設への調査」 効果的な研修を行うための自由意見 (13施設)

圏域	主な意見
広島	・ 参加側のニーズに応じた内容の実施には限界がある ・ 自施設の機材を使用する技術研修は、使用機材が違う施設では活用しにくい ・ 職場背景の違いから、研修の到達度が同一ではない ・ 他施設の受講者の姿勢が、自施設の職員にもいい刺激となる
広島 西	・ 自施設のHPでは広報不足のため、近隣の施設に案内を送付し、看護協会からも情報提供をお願いしたい。 ・ 研修項目のみでなく、研修の具体的な内容・方法も提示し、年間計画を早めに周知し参加を促す。
尾三	・ 看護協会の支部における施設代表者会議で、相互のニーズを出し合い意見交換する。
福山	・ PR不足のため、地域の病院へ案内を送付するなど広報を強化する。
備北	・ 他施設の新人研修計画内容や受講者のレディネス把握を行う。 ・ 研修内容を、他施設でも活用できる内容にする。 ・ 年間を通して、教育担当者間で連携をとり評価しながら進める。⁶

医療機関受入研修活性化のイメージ

目標：地域の実状に応じた連携の推進

★受入研修の活性化のためには、「地域連携に向けたネットワークの構築」や「地域で新人を育てる環境づくり」が必要である。次に例示する連携パターン以外にも、それぞれの長所を取り入れた複合型の研修の実施により更に効果が期待できる。



■ 県の役割

各関係団体に受入研修への協力依頼し、医療機関に対しては研修開催に向けた相談や情報提供が確実にできるような体制を整備

■ 活性化のカギとなるもの

【関係団体の理解や協力を得る】

- ・各団体の広報力をフルに活用できる
- ・所属長の医師の理解が参加促進につながる

【医療機関の取組を発表する】

- ・発表することで取組の成果を実感
- ・自施設での実施に向けた検討の機会

H23年度 新人看護職員研修の状況

(二次医療圏域別)

圏域	病院数	新人看護職員が いる病院数	補助金 申請数	新人看護 職員数	受入研修 可能施設	受入研修 参加施設	参加人数
広島	100	53	25	440	8	6	13
広島西	13	4	3	67	2	3	14
呉	30	18	8	155	2	2	2
広島中央	20	7	5	86	1	0	0
尾三	25	14	7	72	3	0	0
福山・府中	49	26	10	103	2	0	0
備北	11	4	3	22	2	2	4
合計	248	126	61	945	20	13	33
県内新人看護職員数のうち、新人研修補 助対象者数(割合)				1,506 (62.7%)			

課題

○OJT補助金申請施設は400床以下の施設が9施設増加した。

○受入研修可能施設の空白地域はなくなり、可能施設は増えたが参加施設数が伸びない。

(病床数別)

病床区分	病院数	新人看護 職員が いる病院数	補助金申 請数	新人看護 職員数	受入研修 参加施設
500床以上	8	8	7	321	0
400～499床	11	10	7	231	1
300～399床	22	15	10	125	2
200～299床	23	20	10	128	1
100～199床	87	45	22	131	5
20～99床	97	27	5	9	3
診療所		1			1
合計	248	126	61	945	13

<注釈> ※新人看護職員がいる病院数は、広島県の独自調査により数把握
 ※新人看護職員数は、補助金申請のあった病院の就業者数
 ※県内新人看護職員数は、「卒業生就業状況調査」の県内就業者数

Ⅱ 現場のニーズ調査(H23)

③ 「補助金の申請希望」及び

「新たな支援の活用希望調査」 (108施設)

申請希望の有無	施設数	希望しない理由
希望しない	47	・ 研修プログラムが作成できない (28) ・ 申請手続きが難しい (12) ・ その他 (メリットが少ない, 新人が少ない)
希望する	61	
新たな支援	希望施設数	希望内容 (複数回答)
アドバイザー派遣	41	・ 研修プログラムの作成 (23) ・ 看護技術以外の研修の講師 (16) (患者の理解・患者、家族との良好な人間関係) ・ 看護技術に関する研修の講師 (9)
シミュレーター活用	54	・ フィジカルアセスメント (21) ・ 採血, 注射 (19) ・ 導尿, 浣腸 (17) ・ 吸引, 気管内吸引 (15) ・ 救急蘇生 (14)

H24年度 新人看護職員研修の状況

(二次医療圏域別)

圏域	病院数	新人看護職員が いる病院数	補助金 申請数	新人看護 職員数	受入研修 可能施設	受入研修 修了施設	参加 人数	シミュ レーター 貸出件数	アドハイ サー派 遣件数
広島	100	46	30	456	11	17	35	26	7
広島西	13	4	3	91	2	0	4	0	0
呉	30	12	6	185	3	2	4	1	0
広島中央	20	8	5	72	2	1	1	3	3
尾三	25	17	10	87	4	1	2	7	0
福山・府中	49	24	13	124	3	1	13	5	1
備北	11	4	3	38	2	1	2	2	0
合計	248	115	70	1,053	27	23	61	44	11
県内新人看護職員数のうち、新人研修補 助対象者数(割合)				1,584 (66.5%)					

(病床数別)

病床区分	病院数	新人看護 職員が いる病院数	補助金 申請数	新人看護 職員数	受入研修 参加施設	シミュ レーター 貸出件数	アドハイ サー派 遣件数
500床以上	8	7	7	377	0	1	0
400～499床	11	10	8	256	1	1	0
300～399床	22	14	10	139	1	8	0
200～299床	23	19	12	129	2	5	5
100～199床	87	45	27	138	10	26	5
20～99床	97	20	6	14	7	3	1
診療所					2		
合計	248	115	70	1,053	23	44	11

課題

- 〇〇JT補助金申請病院は9施設増加したが、中小規模病院の申請率は大規模病院に比べると低い。
- 〇400床以上で申請していない施設は、精神科単科の病院及び療養病棟が多い病院である。
- 〇受入研修可能施設、参加施設数とも徐々に増えている。

<注釈>※新人看護職員がいる病院数は、広島県の独自調査により数を把握
 ※新人看護職員数は、補助金申請のあった病院の就業者数
 ※県内新人看護職員数は、「卒業生就業状況調査」の県内就業者数

II 現場のニーズ調査(H24)

③ 「医療機関受入研修に参加した理由」及び 「参加しなかった理由」等の調査 (166施設)

参加した理由	参加施設数
自施設で実施することが困難な研修内容だった	5
新人職員が少なく、自施設での研修体制が整っていない	12

参加しなかった理由	施設数
新人看護職員がいなかった	12
希望する研修内容ではなかった	4
自施設ですでに同様の研修内容を実施している	52
他施設で受講している間、自施設の人材確保が難しい	23

その他 (27)

- ・看護協会の集合研修に参加しているため
- ・出席の日程調整が上手くいかなかった
- ・参加のための情報提供がなかった

Ⅲ 地域の病院同士が直接話せる機会の提供

①新人看護職員研修担当者会議の開催 1回／年

- ・ 補助金申請手続きの説明
- ・ 新人看護職員研修教育プログラムの事例発表
- ・ 二次医療圏域毎に小グループでの意見交換

意見交換

- ・ 受入研修には、中途採用者も参加できないか
- ・ 自施設の指導者も受入研修に参加させたいのだが
- ・ 参加する新人は、疎外感があるのではと心配している
- ・ 職員不足で日勤中の参加が難しいが、どうしているか

②県看護協会の支部毎（地域単位）の施設代表者会議の活用

- ・ メンバーは看護管理者 2か月に1回開催
- ・ 次年度の受入研修[※]及び参加希望施設との情報交換

(※ 医療機関受入研修については、県看護協会加盟に関わらず情報提供を行い、参加希望を募っている)

成果と課題

H24 「医療機関受入研修参加側の意見」 (22施設)

サブタイトル	自由意見
研修効果を 実感	・ すぐに日々の業務に活かせる内容でとても良かった ・ 現場に持ち帰り、他の職員にも伝達して活用できる ・ 他施設との職員との交流で研修のモチベーションがUP ・ 基礎的な部分をしっかり教えてもらえるので、自分の対応に自信がついた
希望する研 修内容	・ 自施設が療養病棟で、急性期に関する内容を希望 ・ 人員不足で自施設での研修の開催が難しい ・ 認定看護師等から専門的な内容が学習できる
研修への期 待	・ フォローアップ研修があれば受けたい ・ 認定看護師の講義は、講師が熱心で、わかりやすい技術の指導が受けられる

平成26年度の事業の方向性

目指す方向と課題	事業内容(拡充)
中小規模医療機関を中心とした研修体制の整備	1 二次医療圏毎に新人看護職員研修体制の情報を共有化 圏域別意見交換会(仮称)の開催 2 研修体制整備への支援 ガイドラインの内容の周知 研修体制整備のための個別相談
指導者の指導力の強化	1 実地指導者研修事業 研修内容の拡充